俳諧

四季草

六

掌中發句五百題

春秋菴白雄　著

春之部

元日　元日や表ふきかへ裏表　千川
門松　門々松苔藥罐を乃ぞ窓　舟泉
蓬莱　蓬莱に竹も素寒し　宿竹屠苏　鮑　岩翁
今朝春　朝夕の人もやつ〳〵　若さ竹素　宗因
立春　春立や竹をもて利根の水境　横雀

川喜田孝助藏書出印

若水　野坡
初日　観水
花春　丹陵
萬歳　荷兮
初空　宗乙
着初　可悦
初夢　安室
歯原　重五

一つの糸や糸ハ糸よ結ひ〜を
ものと麦をおとる〜初景
彩〜〜う子就思ふ〜義の去
美嶽の宿を隣不明よ雪
初空や出宿の帰る婆伝
祝うたくハ川黒衣きたる〜光
初夢やおもふて寝うる日の光
山樂よう〜向吏る竈の那

子日　獨寝もよき宿とるむ初子哉　去来
小松引　引添る松や手〜君の為　曲翠
若菜　うち群て菜摘ぶ脛ふし　仙枝
七種　七種や拍子とるの振り姿　湖月
齋　雲ふ〜雲も散よ白る蓑の形　玄角
芹　糸原の根芹　摘〜籠の那　千春
梅　白梅の散〜の宮沈ぶ中心　尚白
紅梅　紅梅よ姫雲る書戸の那　杉風

柳　旭二分柳の動く匂ひ哉　荷兮
朧月　三日月ちらと色づく朧哉　前川
霞　白く光る霞たなびく出潮哉　治蓮
朧夜　朧夜の月やあらん狙の鄙　沾洲
春月　山の端ともちらく影く素の月　魯町
雪解　かくまちて岩根ふる雪解水　青雨
残雪　数彩や是雑所の残る雪　加生
雪間　夕掘ひよ雪間紙子のみとり水　轍士

春雪　飛鳥の丘ちり低し素の雪　桃遠
糸遊　いとゆふや憎き簾乃人の影　乙州
春雨　素雨やうそゆふ雨や静なる糸　紹雪
東風　り鶯や東風よ法きての破惜　釣篇
陽炎　のけうふや馬の眼のとろくと　傘下
長閑　もち家さとそのも忘れぬ朝霧哉　杜國
春日　そなるものりや菜の木畑の小弦節　正秀
永日　懺法の長ふる日暮も哀　許六

春野　春の野に出でて人乃素敵哉　有妻
春水　うらうらき鶯浮乃り春の水　舟泉
春海　見渡せば山おもてなる海　芳川
春艸　むらむらと芽ぐむ草の草　来山
若艸　わかの草や踏まぬ緑なる　羽の苗
蒲公英　蒲公英乃咲てうらうらぬ日並乃　風睡
土筆　霄の面ちらもや乃毛乃長　普船
落墓　ちらちらや屋さ越しなる露の義　閻指
　　子祐

蕨　蕨や咲てふものハ鬼あさこ　荒雀
菫　何の氣もなくあなたの菫の角　忠知
菜花　麦乃緑よ菜の花かくれ嵐哉　不悔
菊植　我庭の九の月おくれ植菜乃苗　簫山
杉菜　玉鉾乃歌よ杉の長くなる杉菜乃　全峰
蕨　早蕨や陽慶あと踏る妻ゝ親　白歩
芦角　ゆのくさいい角出て濱の芦　路通
萱　蕨めけてちちちん朝まさき　嵐雪

麥青葉　菜麥や泊瀬まのあたりふる　五東
鶯　鶯啼や赤樫うすらふる日影哉　閻指
鶯　樹下水黄色とまる日和の那　羽色
駒鳥　麗ふる菜のかくれの鶯の鳴音哉　卯七
雉子　うぶうぶや麦踏科を見る雉子　言水
鶉　雲雀立河原笹胡や高の芽花　一髮
玄鳥　かをくく埃ふく門や雲雀花　怒誰
雀子　蝿うちに別る苗の子飼ひ　河瓢

鳥巣　きるの巣や蓬八拐よ蓬孫　北枝
麦鶉　ひく帰鶉乃麦の秋時雨　諷竹
雲入鳥　雲入鳥餌を訓ふ糸ふ　其角
帰雁　帰雁形くやあの鶴の鶴　丈艸
几巾　片波や船ふく揚る帰雁　如醴
猫戀　文る扶を乾猫の見れ　川支
初午　ふれ午や雉子唯うち鼓　仝
彼岸　戸障子を明ふる彼岸哉　水札

涅槃　孫子ん像赤き衣見も眼ゑ立ち　沾圃
出代　出ずるや傘さけて夕あり免　許六
数入　数入や釣り河ハあるとも　其角
如月　如月や松乃苗寒る松ゐもと　素牛
寒食　寒食の日旅人ゐまた創つむ　藤色
冴返　雷や如ゝ雪冴返ハ　去来
焼所　鳥帝て焼野の衣ゐ乱る　乱糸
獨活　暮ゐや古木の中の獨活の前　杉風

鹿落角　角落て座すくもるる小麻ゐ和　蕉笠
椿　歩ゐ居や椿の落る音　玉角
若緑　原をこの雪ゐ若緑ゐ芽　土芳
海棠　かいどう弱花を濡さう秋の月　洒堂
木瓜　草ゐ袋や野を暖ゑ木瓜の花　残荘
木芽　碁ゐ倦て度もるる木芽ゐ　鵜白
指木　素を付て見ゐ指木のきのふゐ　左次
接穂　見たきゐの素ゐ紫ゐ接ゐ和　嵐雪

余寒　彼岸まゐりも一歩ふみそめし　路通
蝶　てう花や祖を呼さむ原茫々　丈角
蛇　作向よ雪てらもかくや蛇の足　土芳
蜂　蜂とまる木蘭の牛や雲の峯　昌房
蛙　暁をひつりしてふる帝　魅　越人
田螺　小桶くゝ田のかゝる雨おそ　尚白
蟇　おかよとゝ鳴やてゐるゝ　鱈　曲翠
蠶　蔡て起くゝ吟とゝまする桑つゝ　知足

種卸　たゝ清水を濁らむる小川哉　弁石
苗代　畷道や苗代時の角大師　正秀
田打　子を猶ちゝを田を打鰐丈々　快室
畑打　ちゝくゝと畑うゝ雲や南風　好風
白魚　ちゝ魚の白ひや秋の箸　之道
小鰷　ちゝ澄て網の目白し小鮎々　重政
柳蜺　明ちゝやちゝ跡つゝむ柳ちゝ　遠水
彼岸櫻　西行よひゝ搖も桜ちゝる　杜若

初櫻　初さくらハ色の薄乃好ましく　和及
初花　なつかしやいとの忘れなとの忘　野水
茶摘　山畑の茶摘をうさに夕日かな　重五
弥生　三月や冬の家色乃薬一木　文中
峯入　こゝ入や教ふめ法者る法螺の口　士芳
上巳　弥生三日枕頭ふ子ち姿の友　尚白
雛　世ゝ乃ゝ酒ゝ乃ゝ酒ゝ姿ゝ乃ゝ　其角
曲水　曲水や筧まゝ流する宿ゝ丸　仝

蜑雛　巡禮ゝ余ゝ波ゝ海ゝ苗ゝ雛　仝
潮干　月ゝ乃ゝ人潮干ゝ奥ゝ乃ゝ和　昌川
桃　壺ゝ源ゝ盃ゝ霞ゝ乃ゝ花　北枝
海苔　人ゝ乃ゝ海ゝ苔ゝ乃ゝ花　杉峯
海雲　ゝ乃ゝ海ゝ雲ゝ乃ゝ定ゝ海ゝ乃ゝ　菊齡
櫻　散ゝ乃ゝ櫻ゝ乃ゝ醒ゝ乃ゝ　自悅
遲櫻　山ゝ源ゝ青ゝ葉ゝ乃ゝ　吏朋
花　花ゝ乃ゝ中ゝ乃ゝ戸ゝ引ゝ乃ゝ　龜洞

梨花　書山や雪よりぬけ出る梨の花　阿童
醍醐　一ぱいと山吹散るく夕暮れ　襟雪
岩榴　和らうよ女松山とそふはしく水　尚白
春風　水ねしく流れよりとまる春の風　阿水
別霜　別霜よくて巨燵を塞ぐ片ふ　調柳
藤　山茶の氣候をあるる枝垂れ　卯七
春暮　苔代よ紫山子八めれと春暮れ　乙由
行春　春もそや見ぬくるる春の行　林紅

夏之部

更衣　塩魚の裏干日かすり衣のうえ　嵐雪
袷　序簾より向ふ古風の袷ふ　乙由
綿貫　ひさや柳の岩の岩あるく　水因
青簾　石位六位色ひさと矢ぶく青簾　嵐雪
灌佛　ふ〜男世と生れくる手ふる佛ふ　助叟
花御堂　寺〜や涼〜くるる花御堂　九節
花摘　閼伽桶よ花摘新の勞見ふ　一有

夏

短夜　蕎麥　夏夜　子規　鳴鳩　卯花　牡丹

蕎麥の花の多くなるを　文考
菴の花も短くなりぬ　嵐雪
破蕉の蕎麥の花　去来
夏の花や麻入もつらぬ酢の真　五重
黒羽　帰るべく風うるはしかるべし　利牛
うしろ姿夏の夜僧よかんと鳥　重角
うち捨の乳母のつらき垣根哉　卯七
蕎麥の花と牡丹の咲う花　金峯

杜若　罌粟　紫陽花　蕎麥　燕尾艸　百合　茨　菱

杜若の清き書の来る日々花　鈞雪
涙風よ稲ちあふけ〻の蒼ら分　智月
紫陽花の咲きて紅日々日ぶ　乙由
おもしろ咲昇くる蕎麥の花　戈磨
燕尾艸も田の子の数の引き尾　如竹
琴の音を聞けばゆりの月夜哉　文考
荒れ初き花といひてもなほ花　風雅
菱咲くいとも況む小夜哉　五朋

骨蓬　かたくりの一名なり　一露
藻花　藻の花ハかわさきの名なり　胡及
萍　萍や侍のくらかりなし　嵐雪
藻刈　古塚や城よりちいさきも刈る　暑子
瞿麦　撫子や姉一の名も長義也　針影
夏菊　夏菊　同
簟　簟赤や女子の乳の袋　鷺水
　　夏菊の名なり　龜同

鈎鐘艸　狗蓼草後より付る名なり　越人
茄子　茄子の数茄子尋む　星月　秋雪声
覆盆子　覆盆子ハ藤の落葉盆子　杜旭
蘭花　蘭花　此節
芍薬　芍薬の花小金入ると　時吟
葱　葱葡萄何を葱乃生ル史歩　卜宅
麦　麦　巴流
葉撰　太皷ハ川ハ焙炉とかへ　史邦

麻　麻畑ゝ風助通ル屑家ゝ松　斜影
青嵐　ようきてるよ蚤ゝ金魚ゝ　青女
若葉　ようゝ目もいとて蓑ゝ紅葉ゝ　舎良
茂　山の茂流石女郎蜂のうゝ　杜若
若楓　もの皆ゝ葉蓑ゝ楓　嵐竹
桐花　風ゝ吹ゝ葉ゝ桐の花　千角
柿花　波羅の葉よもぎむ　雪芝
楝　虹の根とかく尻卑乃樗ゝ　鉦可

橋　さゝちゝれや奈良の都ゝ玉の臭　春洞
青梅　結ゝ吹ゝ小梅八枇杷のゆの臭ル　土芳
合歓　繰ゝけて子ゝ陽ゝ西蓋の移む　沾徳
筍　筍や竹ゝ奥ル大竹ゝん　其角
若竹　ゝきゝ彼るその竹ゝ垣根ル　素堂
夏月　馬ゝくゝおゝれ夏月　聽雪
夏山　夏山や菴ゝ月ゝ二曲　豊翠
夏野　松毬のみゝゝ夏野ル　卜枝

夏木立　橙や日よけあらんかぎる　夏木立　閒指
雜夏　浮草や河骨のうきの葉　不知
水下閒　山鳥もきくとまき雪の水下閒　千春
昼寢　臭紙の蚊帳に深る昼寢哉　朱峭
松魚　荻鰹やすこしの人参ちる　素堂
鱸　胴うちもあてもも洲の鱸　雪芝
川狩　狩りや荻川の人名を呼　由之
鹿子　むらくの鹿の子　陽和

鹿茸　牛鞭ふ鏡へよ鹿ち帷角　近之
火串　霞くやそ串ふる目も山ふそ　嵐竹
螢　ふるくやそ蛍もめくる乎車　孤山
夏虫　すきたての髪ふとも毛の虫　昌房
蝸牛　世ふにそ道ふ者ふ人ふ　友元
枝蛙　枝蛙何をあくの鳴よ蛙　嵐雪
蝙蝠　かとりよ影ふてらそ雪ち檜　秋隣
蚊　啞蟬乃峰蚊指を表ちり　杉風

蚊火　山里の蚊ハ畳中よ煙ひけ事　去来
蚊火　かゝり火や話ひ分たる礫もこれ　百里
蠟　行そ見て灯屋面白き　月彩小　言水
紙帳　鶏鳴や柱ふまくる浅帳ゟ　素牛
端午　始うて粽蓬生ゟ新と結ゟ　曙山
菖蒲　朝あやめそこちら葺くハ菖つゝん　三筒
幟　ひつゝや来のとゝり話幟　嵐竹
粽　上童　ちうやちのかきやう　西吟

競馬　月の以後や馬の競ひよ見宮ハ　氷巷
印地打　おりふ人よ商ま印地の空礫　嵐雪
入梅　蔵の密や蚊の帰出ハ入毒時　洒堂
五月雨　湖の多ゝ雨ゟ見ゟ月雨　去来
五月闇　五月闇ゟ月ゟ雨ゟ時　降子　弐之
田植　蛭の血も物ゟうき神の田植小　漁人
早乙女　ゟ乙女話ゟ月蔵の殘ゟ船　言水
早苗　子八俳又八てゟらて苗ゟ　利牛

青田　四月の旅面白さ　青田哉　千山
秋雞　ゆくうちふかし　流るる鶏　倫山
芦雀　こゑ〻〻〻　時や鶺鴒　露川
翡翠　蓮まこもこれ翡翠　みこ川辺　如柳
水鶺　ゑ札帰さを　近蓮　この郷　景道
羽抜鳥　ゑ〻ひよ　柳やとる　羽抜鳥　波山
鶯音入　音と入　黄色　目の〻　時吟
涼雲雀　夏の〻　涼雲雀　木奴

鶉　あおうちふ鶉とせりあてぬ　鶉の郷　尚白
鶉飼　鶉ふ〻〻〻　鶉飼舟　越人
鳥入巣　肉川や　鳥入巣　鶉　其角
氷室　暑られと　氷室　暑日乃中の色　近之
土用　病人のおもひ　土用の船　敏足
土用丁　虫干や　暑を振へ　ハさ〻〻花　卜枝
夏痩　夏痩や　鶉　竹　暑　嵐雪
暑　ものゆえ　忘る暑られ　雪芝

雪峯　八雪ふる山路の険漠を雪ふるの　其角
水舞　六月ふる汗ぬくひ　越人
白雨　ふる雨や山伏里に入ぬる　万牛
涼　琴弾て老とくまぜよ夕涼み　智月
清水　山道や茨の花ふり清水　露底
風薫　洲の雲やいろ形るゆゆも風薫　松濤
心太　四辻に弱の滝上る心太　其角
草　味はひもあるの草　馬覓

扇　面白く嵐ふく扇一の那　伴自
團　ひそうき雉ふる扇の友　許六
蓮　聊うや蓮に見るまて居る心　湖春
待葉　一紫浮て毋に若しる蓮の葉　素堂
旋花　馬士や狂に魚ふる仮寝哉　言水
壺盧　夕鳥にやとくふる壺の那　前川
帷子　帷子に雨ふまて行池の東　文中
夏衣　袋や俗ふ隠居ふる夏衣　嵐蹄

汗拭　汗ぬぐひ小書ようかきて沖津風　嵐雪
祇園會　群よりあつる人の競も都うか　其角
祭　豆ほ粉や袖の塚葉つて里祭　許六
瓜　月の影やあつよ素瓜の姿と表　巴山
御祓　河原を癒まれまふ所祓ひ　荷兮

秋之部

立秋　宿備の山伏あちら男ゝ朝の秋　居中
初秋　ちり秋や親よりあをし角力乱　采岳
七夕　星合や哥を吟じて蟬手入　山峯
銀河　行水のけぶるぬ影之の川　如竹
鵲　鵲乃橋のうつかる風の　水因
燈籠　寂と家の拠籠家に身和ふ　未泊
高燈籠　人魂か消てとすくの燈籠ふ　言水

迎火　むかひ火よ孤の魂乃道乃　其口
迎鐘　抱うまて撞子ハ雅そむひる　春富
施餓鬼　石塔よせうき弟柳の崩をり　文里
墓参　盂蘭盆や家のうち向ふ墓参　阜袋
魂祭　森乃ものうくやうれ魂祭　去来
蓮飯　松の柴や包むち後を蓮の飯　支考
麻箸　かき人の数を売て折をり　全峯
嵐尾州　嵐尾草の秋ふかる国の郡　桃妖
生身魂　うまうさ比身を経くや生身魂　百里
盆月　うちむふふ稲ふ匂ひや盆の月　李由
送火　送やうう人並て燃すとも　柳江
花火　菊ちちう踊ちさものハ花火小　桂夕
踊　踊子の腰抱さうな月夜うの　去留
相撲　相撲とり並ふやく秋乃角ふ　嵐雪
秋風　ちのう形や麻刈う跡の秋の風　狩童
初嵐　初嵐凡ちう小屋い荒ようり　濁子

暴　温泉煙の地を這て別　東睡
露　雫に似てまろ男のよゆの霧　孝和
霧　秋雨や鳥もとを形々　鶺乃雫　毛鈍
稲妻　古簾　稲妻ふ家　かつまう形　立吟
虫　菓物や二樂の中ゆ　虫の音　尚白
蜻蛉　晴嵐の新もおかく　眼むう家　知足
蛤蜊　水際ゆ晴て居る本の風情ゆ　淵泉
竈馬　焼ゆ尾焼ゆ　寂きいとくの家　掉冊

蜩　ゆくゆくゆ蜩乃　法華の形　立祖
蟷螂　端脇の名々抱　おむ　稲妻ふ　千流
松虫　雲ゆくやうんもいなぬ蕎麦碗　嵐雪
鈴虫　すゆ虫　簾へてもうん　麦ゆ　桂士
秋蠅　対文ゆのふそ用む　秋の蠅　松吾
秋蟬　うき事ゆ過へ来るうり　秋の蝉　晩山
秋蝶　稲の花　古小町　蝶の　言水
蠶　時ゆたゆ　浅喰ハまて　蠶う家　挙白

蟋蟀　多よれハ蟋蟀もこさりけり　智月
柳散　長ふの蔭ゝ中ゝ細き柳かな　三千風
柏葉　寂ゝさハて度々柏の二葉かな　湖水
木槿　多とうけて折ゝてる門木槿かな　杉風
雞頭　閑静い祭も過ぬ雞頭　史邦
女郎花　女郎花　松へゝれしる地の忘り　呂風
蕣　朝白ゝ時ゝ紅ゝ多ゝ蕣ゝき　戈磨
秋海棠　秋海棠　秋海棠の美人の寂　涼菟
萩　戸樞や子持ち萩の花　志賀
荻　穂荻の秋の寂ゝ吹枕かな　呂風
野菊　此あゝ笹ゝ入ゝる野きく　百有
芙蓉　晨明のぬれて落しる芙蓉の那　其汀
蓮実飛　蓮の実や飛て懸の赤ゝ　猿雖
藜花　藜別事翌日和て藜花　風化
葛　葛ゝ紫のゝ八郎が晴ゝ急　朱拙
芦穂　川船や港板かゝる芦の花　亀汀

蘭　盗る葉や乞喰乃蓑乃下　嵐雪
芒　幸く宮古根よ言ひすきが　俊似
尾花　吹おろし吹のわる咀の尾花が　松吾
番椒　蓼喰ふ虫はわきても唐がらし　胡及
苍野　仲ひろく刈る男も荷ふ花の代　任口
草花　下ちき奇蘭のうちも中の巻　左栉
芭蕉　秋風よ巻ぬのおもてに世代代　加生
蔦　桐木よ清きあさに蔦の命うあ　扇雪
蕎麦花　そそ[illegible]よ横の志賀が嵐うあ　乙州
木綿　山畑をとく数万あき木孫うあ　松吟
西瓜　西瓜ぞ川那分とあ[illegible]奴豆うあ　素堂
瓢　家の袖や世をあ[illegible]の書瓢　桃妖
零余子　彩る竹とを肴うあ零余子うあ　阿徑
八朔　八朔よ酢のきうあ　鶏う那　許六
三日月　弱歳の木曽や出[illegible]ん三日月　去来
月　分芋をあれて海の月夜うあ　露川

待宵　待宵や明日の命ハわすれ事　羅人
名月　名月や折もの〳〵ふゝ猶おとし　轍士
既望　十六夜や有るとも出て帰る人　許六
后月　来る南郊二葉や後の月　其雪
駒迎　爪髪も旅のまゝなり駒迎　荷兮
放生會　又ゝ月も筆へもせよ放生會　泥花
初潮　初汐や磯山ちゝ家いくつ　半残
稲花　潮つゝうゝ稲穂　芝柏

稲　彼岸乃おもゝ〳〵ゝ形稲の秋　土芳
早稲　早稲も穂ゝ出ゝく大ゝ寺魚人　林紅
晩稲　ゝゝく出赤ゝ貯ふくてゝ形　路健
落穂　拾ゝゝ肩ゝ落ゝの重ゝ　卜枝
案山子　ゝけるゝゝ人待ゝ影のかゝしゝ　正秀
鳴子　山園ふ小松のうゝゝ鳥子淀　峯雪
引板　山添ゝ日の出の野や引板の淀　亀洞
添水　象谷や流水の音や道ゝゝ人　普船

鳥驚　稲田の俵やもるく広ゐ多おとし　涼莞
落水　雨乞ひ里もめるく受落し　古梵
落鰷　落りや高くうき雲の嶮峯の紅　重頼
秋作物　黍の穂ゑ出る氣色哉　越人
新酒　見あふる亭見回へハ新酒哉　支考
鶏　帷子ゑ日しく又冷し　鶏の声　史邦
鶺鴒　石ゑ川く立せ鶺鴒ゑ表はし　言水
鳩　[illegible]　琴風

木啄　虫ゑ[illegible]し樹やゑ木啄の日もすのう　雨桐
鶺鴒　秋の日と狩鶺鴒のせそ[illegible]ふや　游刀
鳩　鳩欣や太山ゑ[illegible]き屋ゑ[illegible]　粛山
鹿　巻ゑ山ゑ成鹿の角ゑ　其角
菌　菌狩見ゑ[illegible]ぬ先ゑ面白さ　素堂
松茸　松茸や大さ[illegible]の[illegible]ゑ声　吾仲
初茸　初茸の香ゑ[illegible]出ゑ少ゑ　智子
柿　播ゑ[illegible]に柿ゑ[illegible]る　杣ゑ[illegible]　正秀

栗　生栗をおそるるとはめくる山路哉　雪角
團栗　ぞくりや深も沈もあられ川　其雫
椎　艸籟又椎をさまりて後迄亀　丈中
木実　椎の殻芳哉の山の木実ゝ哉　嵐雪
重九　芝ゝりも秋ひゝ亀　雪鶴付　逢雨
九日　ゝふるをりを菊佩らふと云ひ亀　二水
菊　つゝ色や佩男ぞく弦花さゝり　暁艇
　　菊ハ[illegible]　望水

搗衣　ゝ川ゝ夜ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　挙白
露時雨　潮の数やあの谷谷の霧時雨　丈中
秋雨　秋の面晴て底暗ふ人もなし　珊水
紅葉　かゝ川葵を御簾ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　雪角
秋夜　秋の夜を霧ゝ迄ゝ人の[illegible]　許六
長夜　ゝゝ目を月迄ゝ秋ゝ枕ゝ　治徳
夜寒　松風ゝ影酒ゝ[illegible]ゝ　支考
鴈　初鴈やゝゝゝゝ[illegible]ゝ　松吟

秋暮　秋の暮竹やこゝろを問ふ来る　不炊
行秋　行秋を嘆くと嘲の笑ふ　史邦
秋雲　秋たちて雲の秋の雲　丈中
簗　簗ちかき岸に嵐を吹く秋　防風
渡鳥　山さかやつゝを渡る鳥の声　丈中
鮠　川音に浮き河原の秋寒し　涼莵
赤枯　赤枯の葉のあらはるゝ　五峯

冬之部

初時雨　初時雨何ものひ出れ出ゆく　端水
時雨　あまぬぬと時雨の後の寒　其角
志巻　志巻く小傘持たるとて志巻く　閒指
口切　口切や待ちひらくの鐵瓶　其角
爐開　爐開の日と標茅の冬菜の根　嵐雪
炉　炉の禁たく淋しき冬の一髪
火桶　老ぬけぬ火桶も友と相火桶　露言

火鉢　荻の戸や消しかねたる火鉢より　楊水
巨燵　巨燵より寒さ知れぬ荻まくら　雪志
炭　炭くだけ音さえ冴る深夜かな　嵐蘭
炭竈　炭竈やはけ目かゆる月の面　子冊
埋火　埋火や壁をたたくは蟲の息　巴人
榾　榾の火ふ親子足さし俤寒ろ　去来
十月　十月や卅まで見ゆる庭のすゝ　尚白
神無月　俳寺は雲の落葉や神無月　九兆
神迎　妻の名はあらぬ八洲迎神おく事　越人
神留主　鶏の子は鴨離れ人り神の留主　神寂
小春　初霜して出る八小春はたゝ寒　李由
達磨忌　達磨忌ふきぬく菊は竹離れ　梅葉
十夜　牙物る鐘や十夜は場の月　杉風
御影講　抽も柿もおきれよりの影講　沾圃
御取越　松をの屋もろと合せり御取越　去来
蛭子講　生業のかしきせをたる夷講　ゝ

神迎　風さえて清地はしやれむ　當覺
顔見世　うかれ〳〵踏も四方すてはん多し　諷竹
吹革祭　掃きりて吹革は住連と祭式　仝
冬至　畳も畳表のようとまる冬至ふ　乙州
風　ふるしや星のよ吹く陸奥部屋　尚白
冬水立　碓さけや流れ立う方への冬来立　凡兆
冬山　根の吹うら踏しう冬孤山　氷苔
冬日　冬の日乃り〳〵暮る斗なり　諷竹

冬月　魚店や遠うちあけて冬の月　里東
冬夜　冬の夜の風うの吹やう雀とも　素風
冬籠　冬籠り猫てきとの流ぬへ　影宗
冬構　樵木よ荒張まりて冬かまえ　両梁
寒椿　寒もけうよ花ぬ抜とて冬椿　水因
枯菊　霜枯菊杖うもれハ起那も　嵐雪
寒菊　かん菊の古荒那く日和の事　嵐竹
枯芒　日和て穿し猶垣の面の枯芒　一髮

水仙　水仙よ岸あつうひ〳〵とれ重そ　一晶
茶花　茶の花ゆ世ゆもち〳〵数白ひろふ　正秀
石蕗　石臼農ゆまとて赤のゝゆ浦その岩　胡友
帰花　一輪ハ惟うゆものうち残り　帰美　曲翠
茶山苔　山茶岳や氷とたゝく数　隣　李農
桃杷　いつ咲てゝ陣数年えひえ弘毛　尚白
冬牡丹　もちゆやあのうゆん弘一ツ咲　依之
冰葉　おゆひあゝの茶数ゆる岩毛星弘数　沾徳
落葉　落葉ふゝく紙ハ色なきゆ葉うれ　栅雪
枯栅　余の茶ふも弘きぬ弘弘柳ゆ　越人
蕎麦刈　枯はのう弘弘海の茶ふむ　雀ゆ数　桐實
麥蒔　むき蒔や秋ゆ星数る山うつゝ　漁弓
大根引　沙汰の大根弘ゆ　月氷の郎　俊似
干菜　一茶〳〵うゝ弘茶や　約干菜　探丸
葱　ひゝとゝゝや一ゆの弘弘忘毛　百花
蕪　脊戸乃蕎ゆの序ゆ引ゆの　依之

霜夜　戸もたしなて猪うの声ふ　呑舟
霜柱　ちらくと散る夢ら　尺中
千鳥　ちき波ふうき桶うる千鳥　阿童
水鳥　水鳥のかひさのうる嵐の那　冬柏
野鴨　立壁鴨と大追のへる鴨の車　倫女
鴛鴦　伐士の月海る方や鴛の中　行本
鶺鴒　浮林とくるるつ　水節
鵜鶘　鵜鶘家ハ云紀雪　吏明
鷹　煽燭よ鷹の眼乃ひうるる　祐補
暖鳥　暖鳥いろ浮世とおもひ　木導
木兎　くぼ眠るを待ち　柯上
追鳥狩　夢ち紫を追る狩の茨陸　半殘
冬蠅　生て羽くるまと摺のそそ蠅　史邦
苍膝魚　あんうと共御ある射この車　嵐亭
空鮭　秋ふうくかく鮭作ふ嵐ふ　莫陵
　　　　　　　　　　　　　　　乙州

蛎　かきむくや貝八南にれるも沙ろら　其継
夜興　あるなるよ春夜高ろ歌興ろ船　工齋
河豚　鮫汁よ又本草ぬ御しろ　其角
鱈　きの字ろや沖の殉場八二百尋　間指
生海苔　生海苔嵐嶋ハきこ形きの多偽造　嵐雪
鯨　今ぬ世の多物ろものも絲突　吉女
網代　川つろや夢始きろ沢網代弓　其継

寒　鮫法の鰤ぬ寒ろも　寒ろ秋ろ邪　水導
寒中　鮫ホ猫の寒ろもぬ寒きろ寒の中　浪化
寒声　寒声の寒きの寒ろ枯よ寒　加枝
寒垢離　寒垢離の功して寒ろ寒き事ろ　毋風
胝　紙や寒ふしろこの科ろ寒　吾東
薬喰　茶屋葱も寒ぬ戒の刻ろつろ　山夕
納豆　納豆ろ川寒や孫弓市ぬ月　除凡
紙衣　油引して時ろ逆し戒ぬ　只吟

頭巾　毛純
衾　尚白
足袋　已雪
湯婆　正秀
初雪　利牛
雪　猿雖
霙　素来
霜柱　岚州
櫟　一井
桂　肅花
氷柱　琴凡
川越し　許六
氷　氷英
凍　柴雨
神楽　鹿堂
寒念仏

鉢扣　山峰
臘八　惟然
御佛名　去来
煤拂　嵐蘭
師走　浪化
餅搗　紋水
暦賣　加鬘
年市　涼菟
豆離　亀洞
年暮　角
衣配　山峯
岡見　九兆
待春　亀洞
行歳　越人

たちたちまちあるべき茶筌のたちまち活
猫ハや　雑炊の蕎の味
老らく　法仏名
煤拂の　嵐蘭
節季候　浪化
師走　紋水
餅搗　嵐雪

大年　同じ人の亦逢年　[illegible]　仙花

掌中發句五百題

春之部

春秋菴白雄　著

元日　元日も旅人を見る　彈の那　治德

門松　京ぞ[illegible]　飾　雲　渭子

蓬萊　喰ぶ[illegible]水曹の白ひの檜をの　盛水

今中日　松[illegible]小雲　椎[illegible]　冷[illegible]雲　一雀

立春　[illegible]や　齒朶[illegible]弗矢の根　許六

若水　若水や凡千年乃釣瓶縄　風鈴軒
初日　麓乃簀の家に氣をかとく初日哉　左柳
花春　菜卧乃垂まん二日を花の春　吼雲
初空　そつそつや舟の寄もその貢もの　露言
小衆　歯朶の紫ゴンゴン包尾の鯛の反　耕雪
子日　傘持を大根掘ふ子の日哉　柴雫
小松引　ちかとても小松負ふん牛乃爰　聽雪
若菜　圃のゝ野邊乃若菜摘　其角

七種　七種や唱哥ぬくめる昼ゝ　北枝
鶯　菜挑菁うゝ人　時ゝを　山川
芹　十濃を澤ゝく芹賣ゝ戻り　小春
梅　梅の昼もの氣ゝ入らぬけゝき　越人
紅梅　石垣乃咲て雪ふき野山ゝ　風流
柳　柳ゝを皷もうゝ歌も命　其角
朧月　夕月ゝ何吹あけて　勝月　北枝
霞　むつゝりと岨乃枯木も霞ゝり　杉風

朧夜　陣すきて夜ぬけと形色ハ勝尺　素
春月　深くてハ舞畠くりり素の月　治德
雪解　雪汁や蛤ひうす　湯気すく　木白
残雪　新〳〵ゆ小雪の雪の跡りり　且藁
雪間　雪〳〵小塔の雪間ゆ雪ゆ　乙州
春雪　雪まてう〳〵と春ゆ雪　支考
糸遊　糸柳ゆ動〳〵や去雪の古芒　乱糸
春雨　[illegible]　波五　誠六

長閑　人乃世ゆ考深ふる日の寺　林　其角
春日　糸櫓も長日小めくむ水のめゆ　治德
永日　永き日ゆ撞〳〵ゆも蛙ぬく　卜枝
春日　ぬるあるる徹の光や春の形糸　杉風
春海　松影や旭ゆ月　春の海　不卜
春草　春の形ゆ　いつまの草ゆ春原　嵐臼
若艸　ひつの草ゆ　松小付る　蟻　乃ち　此節

蒲公英　きんぽうげ　花盛　圃箔
土筆　ゐのこづくや　菜屑　文鱗
落葉　落の葉や　蕪を尋る一ぢき　浪化
菊　本瓜菊　旅して見ぬ　山店
菫　炮烙の土　踏たゝれ草　阿水
菜花　塊に咲　きれ　菜屑　冬文
菊植　ことゝもはまさぬ　拵て　菊ぢ苗　沾徳
移菜　維子ぶし　跡　杉菜　田水

蔬　勉綱の塔のうへ　初日　全睡
豊　酒賢人豊ぢ　墨ぬ隠ぬしや　一露
麦青葉　草麦の奥や　豆なる家の葉　沾徳
鶯　鶯や二升　合　数年貢　曲翠
雉子　蹴蛮もひしけと　雉子ぢ　去来
鶏　役所やひとぢ　ぢも　潮ぬり　史邦
玄鳥　乙鳥も御堂の　敲　ぬ　其角
雀子　日乃新やぢ　ぢ　親猶　珍碩

麦鶉　かくまき家や麦うつ　波音
帰雁　麦喰ふ〳〵雁とおもへと別れ　阿水
几巾　市中や馬よう男　几巾　凉莞
初午　初午やめらもの乳母うたゝ抜　沾徳
彼岸　樵夫訪ふて彼岸の彼岸うた　支考
涅槃　頁かてきて母ぢうり涅槃像　胤弾
出代　出代や衣すむる事加様　許六
數入　屋ふ節や洗濯の海　琴風
如月　我さうさや大根もむ如月　野水
寒食　寒喰の日をひしら粥深級　桐曲
河返　背戸中ハ河ゑうり四螺売　文艸
焼野　はつ〳〵と焼野ゑさ蕨　由之
獨活　家内ふくハ茅うと多る事獨活　岩水
鹿落角　角落てちうゝや落る鹿乃友　近之
椿　坐禅堂はつ〳〵椿咲ゑうり　雪笠
若緑　わのゝとう祇の涙雲　来山

海棠　海棠やお八時うち出て堂乃前　史邦
木瓜　砂川や石ゝて明　木瓜の花　猿雖
木芽　骨筑のかゝまるゝも木芽哉　凡兆
指木　たゝきうと見のぬきうる　指木哉　舟泉
接穂　山桜せるもとつゝ　接穂ゝる　猿雖
余寒　僧西ゝ若紙すゝ　余寒ゝる　所董
蝶　找ゝ行ゝ蝶ゝ　蝶ゝ　衣吹
蜂　腕首の巣かゝる　仁王ゝ　松芳
蛙　川沿や蛙の巣のすゝる　石のゝく　風雎
田螺　湖と時のあちらに田ゝ　蝶　朱拙
蟇　雪ゝ　蟇出ゝ　ひきの　其角
蠶　青ゝ　大ゝ　蠶の棚ゝひと　波圭
苗代　苗代と見ゝ　蠶の爲ゝ　支考
田打　図両ゝ　家ゝの田ゝ　夕日哉　仝
畑打　畑ゝ　側ゝ　畑ゝ爲乃　路茨
白魚　白魚の　ゝ　木導

小鰷　嵐雪
初櫻　利雪
茶摘　正秀
弥生　風國
上巳　其流
雛　八橋
潮干　孤屋
桃　海苔　野梅
海雲　抱月
櫻　雨等
花　去来
梨花　重政
酴醾　越人
岩榴　幽翠
春風　水導

鰷壺へ命うちこめる小鮎哉
うつ櫻まさを遣つくるを咲ぬ哉
ものゝ比や桑山しるり丈数連
不二を添て三月七日八日ら形
もゝの見や解出へ美人を嬢る
雛と抱てうゝ蘇桃の数りり
三日月や汐干ハとゝの海ホ多
数〻鯛の鮒の魚の中をあり
海苔屋や筆る
きのふ〻海雲待しらゝ川櫻
朝さゝ美しるてまちや
花を来て浮世の人の神ゝを
梨の花ゝ蝶を日ゝ移り
山吹を浮雲ゝ岨の崩の那
山もの尾をひ移りつゝ式
春ゝ世を麦ゝ巾川ゝの音

別霜　胡葱の結ひ直すさよ　別　霜　吐竜
藤　又云反さらさらさらさら　雪　花　為有
春暮　赤猫のうろちくりぬ春の雪　山店
行春　ゆゝしきや禁よあとに弓鼠鳴　荊口

夏之部

更衣　更衣　十日　そのくハ　花さらさら　野坡
袷　日ふやゆゑて　古机　袷も　似合　兎　湖水
綿貫　弥枝の日を　彩日よ　隠ゝさよ　丹芝
青簾　その色よ　ゆつもあまし　青簾　吟松
灌佛　流佛や　稚子　かたち寺の　児　其角
花御堂　色くゝ乃　彩の　雫や　花浄堂　乙由
花摘　法まゝとも　まゝあて　通る　掻　夫　賤水

短夜　深い〳〵男よ仮名書を吟あき　冬松
葵祭　神恵葵のうゑ〳〵の清〳〵しさ　几右
夏夜　夏〳〵ち秋　秋を待よ掛よりの　冬市
子規　杜宇　秋戸　街道も秋舟之　山店
鳩鳩　かんこ鳥多くひよ物数　蘇　陽和
卯花　卯の華小芦毛の馬秋明れ　許六
牡丹　月隠の霧よめてすゝ　白牡丹　木導
牡若　復の雨さゝらの数の拍子を鎌ひの旅　巻治
罌粟　千那
紫陽花　あちらあよ三笠山を負る山つゝき　所梅
葵　朝霧や住るきて落る立　癸　非群
燕尾艸　澤浮を鎧のふ辺沢辺の那　嵐蘭
百合　うむひく百合と酒呑坊主の秋　柜雪
茨　いそ〳〵ちへ鳥の啼　秋八荒ち物　非群
菱　船〳〵手ゝ出し　短〳〵　菱の芯　雪芝
骨蓬　河貴の一紫干揚る　ふれ条　一露

藻花　もの芯や多くの撞木も一ちらす　丈山
滓　流芯や亀あらはる川まさご　紫雲
瞿麦　なでしこ小憤鳧禪子や川あらい　嵐蘭
夏菊　夕立や星のうちよ菊を切　亀洞
簟　さらさらと小西溢る嘯奴ぶ　柳雨
豇豆　角豆飯妹ら垣根はあまつゆ　亀洞
茄子　紫の小粉人子人は三ツきり茄子　雪声
覆盆子　洗ひたる又覆盆子　糸賢

麦　刈ばしや麦ぶ刈ばしや窟乃内　利牛
桐花　桐の花ふるさと星ふる相の芝　史邦
楝　楝佩ふ月ちとめうしや芝青　嵐雪
橘　立芝や籬ら落ハきりは　桃憐
青梅　青梅やおのうら撞ふ落るまで　岩水
合歓　川添や孫むら乃義ふ巻の色　奥光
筍　竹子ふ分や撞る猫のたまれぶ　許六
若竹　若竹や燈乃出る庫裏の窓　曲翠

夏月　夏山　夏野　夏水立　雜夏　木下闇　昼寝　松魚　鮎　川狩　鹿子　鹿茸　火串　螢　夏至　蝸牛

夏の月　莫陵
夏山や麦もさくらも寺ばかり　山店
鳴くそふ玉の花ふ蔓ばかり　任口
月落る滝のむらひや夏水立　陽和
緑毛亀ばかり遠よこたる　皐月ふる　不知
ひぐらしんばかりやうけ　几右
滝ちりそし岩ばかりの夏　鶯舌
擬ばかり弘ばかりの花鯉　追水
鮎もるもしらまるよなまる　新川ふる　陽和
秋ちのくなるや蔡の子ばかり額つき　土芳
小男鹿や樂しく生る　伴つの　雪芝
草の塚や慕ふ猟男ばかり火宮光　几右
中も水をかる嗅さよ　秋の音　正秀
灯小何星東て蔭る夏ばかり　蝶伽
蝸牛　石年　蔭　音そろき　氷巷

蝙蝠　蝙蝠小日暮るゝて杉乃匂ひうゝ　小春
蟬　夏の蟬涼しき夢や暑さ声　乙州
蚊　旅人や曉うゝの蚊乃引来　沾洲
蚊火　一筋の樗よりまうふ蚊遣の煙　立齋
蠅　猫森や蠅を追て稼る　来山
紙帳　思ふ事帝帳よ書と綴り　野徑
端午　長刀乃天条を通る端午う　百里
菖蒲　際もあき向ひ近江のあやめうゝ　尚白
幟　左右ゝ小樽雲ゝゝ幟の那　百里
粽　むゝ津のしや粽ゝく多も来門　言水
競馬　見るうちよ罪も多ゝ競ゝ　孤屋
入梅　梅雨晴ゝ牛拵する堤うゝ　延年
五月雨　世の人参ゝせゝ雨ゝ傘の下　虎角
五月雨　雑坂や雨ゝ雨ゝ盲むま　玄角
田植　唄ひうゝ田うゝの中ゝ雨の夢　土芳
早乙女　老ゝゝゝ乙女ゝゝ侍田ゝ　景道

早苗　一さをの蛙の血ぬらふ高ゝ那　弥子
秋雞　畑うるゝや孫ゝ萩ゝ鳴ゝ雞　雪芝
芦雀　引潮に萩や夜ゝ鳴芦雀　言水
翡翠　川せゝに秋ゝ来ゝ鳴ゝ翡翠　嵐竹
羽枝鳥　追ふゝし枝ゝ高ゝく羽枝ゝ鳥　立明
練雲雀　霖雨のはゝ晴ゝ練雲雀　巴三
鵜　背数ゝ不閑ゝ鵜の影ゝ　閑指

氷室　六月孤窟捕ゝ氷室守り氷室守　言水
土用干　あらゝ紀州代ゝ土用干　杉風
暑　ゝ暑ゝ籬ゝ暑ゝ八蜜の蜂　木節
雲峯　雲の峯月沒るゝ探の花　半残
水無月　水無月蹴破ゝ入きく大井川　涼莵
涼　涼しさやまゝ蛉の口の砂　句空
清水　響る道のゝ里付ゝる清水ゝ　徐寅
風薫　月ゝるゝとに風薫る書や　景賢

心太　雪の末よ簾ゆるるところてん　玄角
簟　漣や逝江表を多うむし弦　仝
扇　蓍待や分地扇乃風あるり　良昌
團　かゝく日を襟なる蚤哉　鬼演
蓮　蓮の葉生江もあの座清し　苔蘚
荷葉　蓮籠の七夕紀井ふもうさ塔哉　朋水
旋花　塩ゆ祭の名古屋蔓影の寄ゆ　道下
蠱　ゆゝ形の月明ちゆ蛇とあり　戎峯
帷子　かさ動くの日子蚊蚤ゆ戸にゆ蚊　万牛
夏衣　端ゆゝ何ゆ稲ゝん夏ゆゝも　舎棘
汗拭　南ゆゝゆゝと干数行　拭　山店
祇園會　杉の紫も青ゆ月ゆ涼　其角
祭　屍数ゆゆゆも暑ゆ　祭ゆ　特吟
凡　瓜守や樓ゆ鶴竟ゆゆ　玄角
御殺　鮒も鯉もゆれつゆ流せゆゆ　仝

秋之部

立秋　秋きりや雲に附毛のさゝ一　浪化
初秋　初秋や帷子おしゝかゝる雨　毛鉋
七夕　七夕や梵僧吹笛を吹　其角
銀河　銀界よ裙ゝ裾ゝ見ゆれ　銀河　木因
鵲　かさゝぎや鵲多よ物と二ツ星　負程
燈籠　美女美男燈籠ふてゝ送ひゝ　支角
高燈籠　場光籠ゝの物ゝ　遊竹
施餓鬼　鬼音籠ゝの数ゝ　百里
墓参　墓参ちるハ柳の葉ゝ手　立縁
魂祭　魂まつる宿や暗ゝ陸ゝ　調柳
蓮飯　魂の名をけゝ手ゝ清ゝ蓮の飯　支考
麻箸　かゝゝ麻木の箸も老男並　惟然
生身魂　生身玉魂ゝ話ゝ人ゝ杖ゝ　亀洞
盆月　踊る魂ゝ支ゝ月を盆ゝ月　李由
送火　おくりひゝ弟ゝ弟ハ念仏ゝ　亀翁

花火　盲子ら舷歌ゆく美しさの船　春富
踊　一条ゝを待人遅さ踊り那　尚白
相撲　裸身よ麻ら匂ひや相撲とり　許六
秋風　秋風やらつ〻きれの子もふく　来山
初嵐　日をねむ裳ゝ嵐や神嵐　嵐雪
暴　小原女や狩ゝよりむらふ〻へ帯　園女
露　朱鷺雀峰を雲ゝ小露ある山路ゝ　峯白
霧　此橋のあなたの霧のむらひ山　北枝

稲妻　いなづまに取たく篠の霧ゝ　路健
虫　虫とも子ら哀を居ら代萩中ゝ　句空
蜻蛉　富士や笠まこと蜻蛉の渡る空　横几
結糞　そこの出ハ子種の蒔ら紫山子ゝ　鋤之
竈馬　竈るや敷よ飛つく俳棚　北枝
蜩　ち〻夢の蜩やめる神の衷　立祖
蟷螂　かまさらや裾捧ふ手にまとりつく　十丈
松虫　蔦ゝりてゝよ松出ら虫　涕茅ゝ　玄角

鈴虫　鈴虫や炬火先へ荷ふさせる　仝
秋蠅　秋の蠅それも温抱ハ志るまて　千那
秋蟬　秋風や梢さ形まぬ蟬ゝ殼　百里
蠶　こはち田ゑ赤くうりたるいかこ　風子
蟋蟀　灰汁桶の雫ほそりきるもくれ　凡兆
柳散　ちりそ程さふ行乃柳ゆ　望一
朽葉　風待しまふと朽の一葉ゆ　望一
雞頭　柳の稍ゑ鶏もむとの鶏や雞頭哉　施牛
女郎花　わしまゑ〳〵樵ゑ添ふて折もり　松吾
蕣　あさ顔や垣のひりる塀乃際　平交
萩　卧而ゑや小萩ゑもく廉の角　去来
野菊　山路の菜摘きくゝも又遠ひり　越人
芙蓉　百合ハ色芙蓉と偽る命の毒　風麦
蓮実飛　蓮のゝ子泥踏とうゝ何ゝろ　素堂
蓼花　木履ゆく傍ゑ生ゝ季　たての雲　水節

葛　もやくとして高くまる夏菖蒲花　山店
芦穂　芦の穂や招く袁より萩る袁　路通
蘭　外もいさ面白の蘭の濃ふらふの蘭　如行
芒　芒満戸よりさ面白し　秋風や　牧童
尾花　阿乃弱乃尾花鬣吹る尾花かな　其角
番椒　鶏頭よ椒の花を見かしし　央邦
巻野　花野より牛より人を慢まるく　志友
草苔　[illegible]の市　調之

芭蕉　芭蕉葉やうちかへしし月の新　乙州
蔦　蔦の紫や貝売拾ふ岩蔦間　卧高
蕎麦花　狐火弦ちる蕎麦花　荒雀
西瓜　青身よ赤の影ある西瓜売　一江
三日月　三日月や必ちらき星刈り　素堂
月　月の沈隣の樓木をとりり　胡及
待宵　孫人を宵く待宵の月すし　羅人
名月　名月や見ぬ秋ありを居　湖春

既望　既望とは望過まもなし　枝葉の花　猿雑

后月　家ちかく本ちかしも　后の月　壬角

駒迎　駒迎ひ遠坂くらの八月　正秀

放生會　放生とは殺生を禁ずる　松花堂

初潮　初潮や明戸の波に鹿御舟　凡兆

稲　稲むしろ近江の国に廣の船　浪化

早稲　世のうさやまを猿蓑る　船のあか　呂風

晩稲　禅門の数珠　拝殿の藤袖家　遠水　水導

落穂　山畿の案山子似りと笑ひより　重五

案山子

鳴子　此村の亜房隊ふかき　鳴子の船　古梵

引板　喰乃引板風にかかる書もう船　秋色

落水　高よひく入日さ尾ーや落ーー水　古梵

秋作物　秋の田やそのつもりして　稈二俵　尚白

新酒　不稽酒や初よりかまーー井の筒　虚谷

鵙　百舌高鳴ーや入日さーー小雲原　凡兆

鶺鴒　鶉　木啄　鵜鴒　鹿　菌　松茸　初茸

鶺鴒や突ぎる雨の田の畦　肅山
投網に袖ぬきてきく鶉うち　正秀
木啄の枝をたたく住居の邪　曲翠
世哉鶺鴒や雲去て鳴る鶺鴒　磨盤
鹿の音に人の影見る夕うち　一髪
きつけ物や黄茸も見ハ嫌し　利合
松茸へ立て川見ぬ第一雲其　素堂
[illegible]の[illegible]の邪　[illegible]

柿　栗　團栗　椎　重九　九日　菊　搗衣

清澄や澄柿さらし泳ぐ　其角
日蝕ぬ日に喰入るや栗の虫　李由
どんぐり拾ふ花ちり石佛　為有
ひろひ形ぬ[illegible]き風も椎の売　[illegible]
吳菊も色に咲出る九日うち　桃隣
人数に匂ひをうつしてうつのきく　浪化
菊を[illegible]力やなくて菊　圃　軒柳
小夕袖乃腰伸うれしの宿　横几

露時雨　露しとれ川靜へ寺のあし　遠水
秋雨　秋よ程ちいさき家をたゝくあ　峯白
紅葉　紅葉をうつして居る秋のふ　八木
秋夜　初秋と後秋爭ふ秋と風よりり　来山
長夜　一点ともひもすがら形ぬ秋ぬ　阿水
夜寒　月もすれの秋よ孤つう男秋寒うあ　丈甲
鴈　うゝ寒ういふまもなのうゝ沢乙津鴈　鬼貫
秋暮　世世ゝ秋を胡弓弦糸のうゝ秋乃多　嵐雪

行秋　ゆく秋を胡弓弦糸のうゝ秋　乙州
秋雲　山〳〵や一巻ほくわ雲の雲　凉莞
簗　うゝ簗ふも長なり　心水

冬之部

初時雨　此頃の姐乃弦月や神〳〵れ　湖春
時雨　海山のあれ月遠ふ居のうゝ　丈中
爐開　炉初〳〵き心ある附雨の茶　山店

炉　寒しけやい孫戸氏の長も居れ　山峯
火桶　高く弧ふ志津くく相火桶　園女
火鉢　主居る中々豪湯の雫絞れ　芦本
巨燵　宿のくくまくまと去嗅き火燵うち　我峯
炭　かくと寒も其末の楽よりも起りより　其角
炭竈　すくうまと志くて強よりも法ぬぶ　不炊
埋火　うくく火に去筈ふせくく匂ひ々邪　神寂
滑　滑り火は孤の[illegible]

十月　沸まやまく十月孤麿うも　来山
神舞　神舞灯焼孫宜の衣ちも　言水
神送　神おくり荒くう雪孤去大根　洒堂
神墨　神墨の弟子ちもの也源太夫　涼莞
小春　時匂乳のうくて一日小春の京　路通
達磨忌　ちる海忌や時匂る雪孤油楊　李由
十夜　禅門の葦足仏おろし十夜式　許六
御影講　上人忌新之箔おけ伊新講　史邦

御取越　御取越一回義弘寺より一雪稲　嵐竹
蛭子講　酒桶の雪や恵子講　李由
神迎　朴むくゝ五日ゝ弘馬乃口　珍碩
吹草祭　御火燈やたゞ〳〵能治弘良迄　李濃
冬至　書原弘一寸伸〳〵冬至の那　仙崖
風　風宸義平弘小家の子　残香
冬木立　心しる僧とかゝ冬木立　卜千

冬月　冬月もたゞ〳〵冬の風　我眉
冬篭　冬篭淡茶弘売のたゞる色〳〵　阿水
冬構　藁藉ゝ厚さ冬ゝ冬ゝ人　程巴
寒椿　火燈〳〵ゝ冬日よなる冬つゝき　木因
枯菊　菊売や冬ゝく薪の墨ゝゝ　杉風
寒菊　寒ゝ菊や荒さへ男　新兵喰　許六
枯芒　乳を洗けゝ乳ゝ〳〵　枯落　杉風
水仙　水仙や一枝を安房弘　紅たより　専吟

茶花　茶乃花よ岸やく家ゝ見えよる人　色風
帰花　何の木と四ツ三つもあしうちり芝　来山
茶崖　山茶花やいつ〻ちる〻　除帽子　柳土
枇杷　畠木ゝ〻木練つまり枇杷の芝　及松
冬牡丹　うきあるち弘まるよ〻牡丹　杜旭
木葉　岸ゝ向ゝいや〻かゝ氏る木弘ゝ氏　其角
落葉　ちの弘形ゝ悔ゝかゝ形る藤塚ゝ氏　巴風
長崎　の中ゝ長崎の長崎の秋の長崎　一井
千菜　の中菜戦ゝ菜の麻ゝ長の秋の長　次村
葱　対雨月風やいつこの根源汁　仝
蕪　山里ゝ〻の思ゝ〻ゝ　蕪ゝ記戎　松芳
霜　ものゝ〻きき分ゝ聴ゝや庭の霜　金峰
霜夜　山大ゝ〻ゝ弘嗅生ゝ霜夜ゝ家　雪角
霜柱　谷底ゝ鶏の啼ゝる霜ゝ〻ら　凍鬼
千鳥　荒磯や夜ゝ〻訓ゝる友ちゝり　去来
水鳥　私雪弘歩ゝ線ゝ山田の那　湖風

野鴨　嵐雪
鴛鴦　珍水
鵜鶘　攻村
鷸鷂　許六
鷹　遲雲
暖鳥　藤白
木兎　蕉中

空鮎　除風
蛎　荻子
夜興　挙白
河豚　李白
鱈　露沾
生海鼠　万年
鯨　林長
細代

野鴨の雪ゆりたる月哀れ　嵐雪

後の音人よ見せぬ池の鴛　珍水

筑波山や鴛鴦と祝ふ夕つゆり　攻村

鷸鷂鳴て見せりうそ付る　許六

鷹の嘴や石のひゑ一の雲の呀　遲雲

暖鳥ぬくめる　藤白

木兎の頭巾ゆ一いと峰秋ふ　蕉中

空鮎や竹ハ鶯の鳥の鏡　除風

蛎うすくひよ狩しも昨のうゝふ　荻子

三日月よ山ゆ庵とうひ秋興ふ　挙白

河豚ふくふくるや初ふくまて流り　八橋

鱈舟や比良より北を雪氣色　李白

むくけ者ゝ生海鼠や動く朝法　露沾

鯨突く男と守ハ嘴ちくうら　万年

細代ふくむ音や最寄ふ細代吉　林長

羅	羅やうるまるかぶる泡ハ多農泡	杜旭	
寒	寒月のちりくゝと出る寒さ哉	卧高	
寒声	寒雁や子系あること計星月夜	乙孝	
寒垢離	かんたろやおそくへ迄ゝ新あらし	取具	
藥喰	偽や世を怪りうへの茶喰	芦本	
納豆	納豆ちるこゝろ哉や峯ゝ雪ちし	丈中	
紙衣	寒さ大名羽織ひ所帝衣を猪ゝむ	舟行	

頭巾	頭巾袋ゝ新ゝ酒ちゝ新ゝ	其羅	
袋	袋ゝ新ゝ酒ちゝ新ゝ	千那	
足袋	手のいときちゝさき足袋に仕せく	月下	
初雪	初雪ハ麻の角ゝ角ゝ多まんのし	紅雪	
雪	門出ん雪白と盥ゝ新ゝ すのさゝ新	嵐雪	
霙	ゝゝゝ霙や湖仙の出多まを	画好	
雪吹	屋賣の横丁ゝの雪吹ゝれ	湖春	
霰	武士の用ゝくゝまん霰の新	好春	
摺	秋ゝ大ゝ車ゝ素ゝる蛭ゝ	長虹	

撫　かんさつや生羽と越後八郎境　紅紫
氷柱　帆柱の氷柱はんすれば朝日うな　其角
凍　ふ夫死ぬ身の晩や樗さく　仝
神樂　御神樂やうちと焚くぼうさんあり　去来
寒念佛　寒念佛の撞木ぢやかん念佛　支考
鉢扣　主婦ゆき鉢扣はんきよ　去来
臘八　臘八を切とたくを弥扣　杰導
御佛名　佛名の乳よ働くさ髮多　師水
煤拂　家〳〵やかくさ煤拂　祐圃
節季候　節季ぢや寒〳〵鶉と追あるく　惟然
師走　うち出るは小豆も市ぢゆ走る　正秀
餅搗　餅搗きの臼こさうゆりうり　佳峯
年忘　年わすれ箕垣ぢゆ酒　竹亭
暦賣　樗〳〵や暦いそう〳〵き暦うり　嵐雪
豆囃　ひ〳〵〳〵ぢ今そかそ祝年の豆　智月
年暮　年の暮破き袴のゆくゝ下ル　杉風

衣配　衣配笠を如新の比日あり　望翠
待春　待春や水ゝ弱る廛ばかり　智月
行歳　ゆく年や本の実史日の碑岩　沙明
大年　寉ぬ日丁て多きに大晦日　其角

春之部

蕪庵蟹守著

立春　天地や寅ゝも栄ある春の空　樗良
元日や古のふるくせふ居さし　蘭更
元日ゝ二月ありしるし　文左
君ゝ年の松やふくされ子孫ゝ　乗更
君ゝ代千歳も引るゝ子の日ゝ　樗良

祝後とてちらしも入まぜた小松曳　蒼里

若菜姫

かくるるの雲くぬ代深し若菜摘　琴太

七草や稀の紙ぶすかたむすひ　蕪村

うゝ白もあ所山のやまたわらすか　乙二

万歳

万歳や竜の髭まくらち　素堂

笑ひや君うゝ代こあつよ兵ちち　蟹守

笑ひや　まこ拍ちふ海もを沢　道彦

正月

正月を三日ちられて人古し　果更

正月の殿下ありて小職人　樗良

正月をみあう星袋うく月数か　道彦

雪見人や未履ふくかく人ふ孫　暁臺

養父入

雪見人の笑や小夏の高ちうち　蕪村

義入のむ〻ぬ沒や　ちれよ名　岳輅

笑ふ　霧ふて　霧うあき　まふへる　蕪村

霞

ちの霧霧細ふとちふうさりき　蟹守

霧引や脊中ふうへて　軽　霧　漫〻

春風

まきの風吹ふる郡ぞ名残 栗更
大佛の柱くろくやとるの風 二柳
まこもせや川あくこゝて なくるちよ 護物
春雨のうへよ高こゝ家 雁 乙二

若草

ゆ草やあけハかくて手鞠の雪 井眉
ちりくるや花のあくに蓬くも 寥松

梅

梅うまやゆるあき船ちけ 栗更
梅の花そこうしぬ 大荒
梅一輪ふるの花ちぬ 素碌
あるうへ玉一本ぬや 梅花 烏項
栄の古郷ちくかちの春の那 樗良
黄色や人やりあ沢 あらぬ花 暁臺
静ふり先黄色の 鳴うぐ 椿胎
栄のちりけうふ陽の角 乙二
ちの氣の手付そめ新 柳の新 青蘿
春柳や芹生ぬ里のせうの郡 蕪村

鶯

柳

春日

春水

春夜

春夜

春海

春雨

[illegible]も春を待さぬ柳かな　月居

春ぞ[illegible]や孫人とする　古明五　栗更

日永しと猫おもふや塀の穴　蒼虬

春[illegible]まるに笑しる　玄蛙

烏帽子[illegible]浮[illegible]る春の水　蕪村

春の[illegible]清水[illegible]　栗更

人[illegible]あの[illegible]も[illegible]成美

春の[illegible]　士朗

[illegible]の夜や[illegible]の[illegible]　蒼虬

[illegible]の[illegible]や[illegible]昼もなれ　蟹守

春の海[illegible]日の[illegible]の[illegible]　蕪村

[illegible]松海　寒松

[illegible]弘法[illegible]の[illegible]　蟹守

春[illegible]や[illegible]ん[illegible]今日は[illegible]　蕪村

[illegible]雨や[illegible]の[illegible]海の[illegible]　乙二

[illegible]や[illegible]　蕉雨

風巾　切くゝ雲るゝ山下あれやいろのはり　曉臺
几巾　雲月くゝそのそおりくさる　白雄
孫りしゝ家上あくわいりのわり　蟹守
涅槃　山ゝや待もまあくぬ孫さん像　樗良
涅槃会や雲ゝ下りくる雨やゝ　曉臺
蝶も神振ゝく孫さんの教ふあれ　蟹守
椿　落ゝくや田ふもも畠ふも赤つくさ　椿堂
椿ふも一節ハくゝれ中ふ所ゝ　雪雄

只赤ゝ花と月ゝ花ゝ　椿ゝ船　来耗
指ゝを見て抜く花や　鶏丹　蕪村
河ゝへ落ゝ雲ゝ三ゝくおぼろ月　青蘋
暮ゝ雲ゝ出ゝくめ中ゝ春の月　蟹守
もゝまきゝ新のゝ月ゝ智の月　岱青
ゝゝかし柳ゝさゝ体ゝゝの月　成美
出代や若ゝゝゝゝゝ又天切　曉臺
出代て旅ゝの鴉ハゝ結ゝゝし　菖里

蛙

果てはやとなりてもなく蛙　曉臺

蝶

遠歌して夜ふかき蛙　蕪村

雉子

なきそめてやうやうあれかすみ蛙　道彦

初雉の鳴ハ紙のさんれ　策更

戦来よ独ふ入ん　樗良

つまくらとまれハ鳴ぬ雉子　士朗

旅人のやうさ日ハ有りと雉子の声　涼佛

垣一重屋敷ひとしき雉子　天光

妻雉子を捨て養ひ給ふ　菖里

帰雁

きのふさり今日さるとの雁の名さ　蕪村

行雁ふかき初まる雁う郭　道彦

田螺

いかまてもまてあるそと帰る雁　護物

物ひとう因縁の月ふ　樗堂

かくやうのまそとて帰因縁ふ　少汝

鰐ふもうくぬ月のあ猫の恋　涼佛

猫恋

捨てあ恋歌常もあるへし猫の恋　蓼太

乙鳥

雲雀

菜花

蕉雨

曉臺

蕉村

芝山

素丸

護物

菜の花や淋しく月のさすの山　巣然

菜の花やめくらんさくらは　まさ日式　一音

春の野に鶯鳴ひ出さうな　葵高

春野

春辺

松の木に下の海辺のまさをさう　真貫

脱さーをまもる人の春辺哉　成美

春山

又却るまさのいろ山　人庚新　衆更

帆小添ふてまさのさ山歩行りり　完来

紅梅

花梅やとさうの野聖さの日ようけり　道彦

雜　　桃

紅塵や陸天　住む門の花　徹翁
苔橋を寺院のうしろ裏あり　真砂
ちらちらあらは包まれあるや　發の梟　蕉村
つまづくや雲月ふんてちらちら紙雛　蓼太
雛祭　宿を雛と　年ゆり　五芳
白ふくもたちたる廊しや　桃の花　樗良
めくらの笠あまりうつ多くて　歩宗　大江丸
桃の花　蕉村
桃ちらちらとうしろ　道彦

花　　櫻

花の蕊ふくらみ　柏子　蕉木
ちり沈む　蕉村
ちり沈む　成美
落れば花　萬和
年々　士朗
沈丁　櫻　樗良
山ゆ　櫻ふ人　きらい　栗更
ちる枝の　櫻　柳莊

名所巻

遅桜

題不知

雪雄

白雄

塊翁

葛里

月居

樗雪

葛里

道彦

山吹

樗良

士朗

衆更

暁臺

道彦

藤

蓼太

几董

行春　月居
切麥や拵えそこむ秋の至　蕪村
あらし吹やすき書ちや　三月尽　八董
藤よりの春のこゝろの三月尽　蟹守

夏之部

更衣
吹通る衣ぬいしや　更衣　蓼太
書とめしむこゝろの外ふ更衣　樗良

五月雨のこゝろ　五明
打くふ月の雲おもて　長翠
ちらちらの山ふ月の末静　蟹守

不鶯
わとこ咲て桃しへるう　軒の山　東更
鳴る鶯の姿あり　樗良
ほとゝぎす　椿堂
子規鳥もつさめぬ　葵
竹青し木青し　獨栄　吉雪　蓼太

閑古鳥

行々子

何の木に何のこゑぞかんこ鳥　葛里
三日月や何所に啼もかんこ鳥　椿堂
地嵐の落日を消すや行々子　鶯笠
親か子か去る縁しれぬ行々子　葛里
蒼蘆に年も忘れや行々子　遊彦

灌佛

花御堂つりつゝ草もめくまれし　蓼太
灌佛や外のあらけれ静なり　素檗
父母も見えし佛の生れ日は　卓池

牡丹

咲やうな静なるものは牡丹かな　暁臺
花まつさ西わしめぬぼたん哉　蓼太
おろかさの動驚さや ほまんさく　葛三

芥子

夕風やとかしやその芥子の上　闌更
心芥子を思ひたえもあるまし　嵐外
芥子咲やそのいひよき鴬の家　葛里

杜若

菴室にさへ住ぞ花ありかきつばた　蓼太
ひまかれしや笑しく匂ふ杜若　暁臺

多年持ていよ〳〵飽き侘び杜若　道彦
外のさや一枚かれ〳〵八重葺　曉臺
筍ぞふろ〳〵もやしてうつむき　涼岱
さけの子やさみ笹とり付く　成美

筍

あけぼの色て来よりり初鰹　涼岱
藻〳〵の世ふもおそ〳〵初うつを　曉臺
ゑの松魚敷〳〵ふれ〳〵雪日しも　葛里

松魚

卯の花もちやつて垣根の男うば　士朗
毒ふ〳〵て卯の花見やゆ一枝　道彦
見け入き八百重源〳〵夏木〳〵　衆更
かう白よ夏あるる寺や夏木立　蓼太
柳ともなりとしいきて夏木立　護物
ちるぬ〳〵と鶯の落巴義りう形　士朗
雪遅〳〵烏来雪義りう那　鶯笠
来も学ぶちうく義〳〵の穴　道彦

月と月数をみしら数とあれども　曉臺
人きのやむこと無き夏の月数かな　蓼太
雲数や空につるべきあり　葛里
ながく〜と野ゆけば菖蒲うり　白雄
乃の毎小濤ふくめてさきあやめ哉　葛里
今の乃の世を一ふしあやめ哉　蟹守
ちまきしら男ぞ乃ぐ　粽　蓼太
粽ゆけば宮の鼠ちまきあり　曉臺

蚊帳

帷子

蚊戸出や帷子さむき　朱の雫　篤老
帷子やうゑけ八動く釣簾のうち　柳莊
くゝ乃ゝ謙食の浦乃男ふり　寥松
蚊帳をもふふく涼茅又嗚呼ゝ　蒼虬
小庇や盥ゝ〜れく設ぬまむ　道彦
設のゝ協蛛ゝ乃ゝ長ゝ尽　長翠
ゝ乃ゝ後や蚊帳の設屋を人現　篤老

蝸牛

蚊

牧笛ゝゝつゝ牧ひぬ笠の庵　友國

塊つゝきのれハ見も記ぬ世　蟹守

やゝゝゝ角納るもかゝつむり　葛里

きのりや不二の角表紙牛　椿堂

四隅より一隅純しゝゝつむり　道彦

蚊を追ふゝゝろや庵の芳壁まゝく　曉臺

ゝゝもゝゝて蚊ゝく川逸式　玉嘯

笠の際蚊ゝり逃れ旅森う邪　鶯笠

蛍

宇治川や芳野のゝれを蛍の蛍　樗良

いかゝゝ吹ゝゝて飛蛍　曉臺

ゝゝゝゝて蛍小蛍の果ゝゝさ　蟹守

家庵の深淵吹ぬ　水鶏鳴け　曉臺

水鶏

水鶏鳴ゝ無年ゝゝゝゝ家ゝん　樗良

雪ゝ影ゝゝたゝゝせむゝゝ水鶏　道彦

鹿子

山や庵の子ゝゝゝ鹿の角　曉臺

庵のゝゝ蛍ゝ笠ゝゝ笑ける　鶯笠

田植

連たちて那須のふもと障子かな　後物

うき人は猶月なりけり田植哉　涼袋

人の花見ぬころにぬれて田植かな　蟹守

うゆらくとうつくしかりし田一枚　道彦

少し切て見せ人もなくや草の庵　蕉乱

百合

うまれ草山姫も摘れ咲なり　真洞

忘艸

忘くさらふく佐藤の庵のもり　蛙文

若竹

若竹の月に露ふりしきれあり　暁臺

わか竹や今とかりし窓の風さかる　闌更

見えたらし竹ほ若竹新にまさりけり　鶯笠

鵜

わらくとも山むさき出る鵜縄かな　闌更

又羽ちらん十羽ちらん荒鵜かな　蓼太

夕かしき鵜の足あふもしまりぬ　乙二

あら磯や月にちらかして鵜かな　蓼太

青嵐

慈忘れぬ木ちちに子し青嵐　闌更

押へたる岩の盃も青あらし　鶯笠

夏月　涼佛

[illegible]　成美

芒うゑて静かなる　葛里

吹けてちるこの峯　曉臺

先の月かれし雲も　葛里

光角しく冠れもの　成義

雲峯

ほこりと夕立まつや　素樂

夕立

[illegible]　應

竹婦人　涼佛

竹婦人　曉臺

静かに人眠る　夏雲

撫子

撫子ぞ　葛三

蓬生やおてこ　道彦

夕顔

夕顔の　葛里

[illegible]　蓼太

[illegible]　曉臺

夕ぐれや活てもさかるほのうちなる　寒松

合歓の巻

作意なき色なる中にうち合歓の巻　葛里

反魂の人ふまんとや神ふの花　蛙文

里とんるまてふ乃ちるや合歓の花　鶯笠

納涼

涼しさや古寺ふとそるる松の風　蓼太

切戸開ふ新しき風すしし　栗更

涼しさふかうち飛りまふのうへ　巣兆

涼しさはかりぬ淵貴うちるる　蓼太

團扇

鬼殿の子為帝ちり古蝙扇　士朗

蝙蝠うち蝙扇紅ふ乃ふ　道彦

扇なのあまりもとへふ乃ふ　管笠

暑

暑ふ月や夏ふ物のまの手れ　椿胎

暑日ふとのれ人乃人ち物　葛里

清水

引柄杓の湯そ清水　閑文

汲ち新れ命ちかる答清水　暁慧

扇そそもそちくすく答ちそ　羅城

蓮

笑ひなうれや蓮の死ぬるより　暁甚

花さそふ水蓼くれて月の蓮　爾更

蚊の迷ふ夜と咲くや蓮の死　久樹

さりぬやかりられくの冊辺の枝　爾更

蝉

蝉啼やうふを乾くう稲の葉　葛里

ある音の絶えあるを探弦声　醒守

題不知

風誉くて月ありて夏の川底哉　一跡

ふるやや月秋くれ　ふるさとの山　介亭

涼しくも仏の雲まてもとて佛殿川　葛三

ちくさ　さを鹿のいまれぬ佛殿の秋　有斐

御殿

加さくさくと寄くて風の吹萩の鳴弦　寥松

秋之部

立秋

秋くるや裸くて蝉の後のこえ　青羅

涼飯平　秋くるや紅葉弦　果文

花咲くて　ふるさとのひくくて影の秋　車蓋

七夕　青森　青羅
かゝ〜ゑの夜ぶかう星ぞ哀　蓼太
ほし〜の秋をうの袖無まで　鞍風
五位鷺ぞ行〜ふかしをの川　葛里

銀河　白黛
秋の月や茶屋ぞ茶のゆ
あのうちや竹ふかくなる　漢甫

高燈籠　晩臺
ほく〜と夜ふけるや　高燈籠　無村

盆会　成美
茶まうけ人乃盆会うれ　暁臺
于菓盆のうえ　蛍笠
塩漬のなしの人ふかし　漉物

魂祭　芸村
味噌なめや盆三日　魂祭
玉祭　涼邨
祭ひとつ〜今も死さう　魂まつり　成美

魂迎　葛三
魂迎ひ文ふ追へき　新月

父母ちゝ親なくふ家ゝ月　蟹守

盆月　盆の月　午心

盆の月ゝ人ゝ〳〵　有斐

露　人ゝ〳〵　岨の苔　葛里

ゝ露や美しき秋と思ふ　蘭更

秋雨や稚ゝ小松ゝ　几董

流芽哭や苔の上の新法師　冥々

霧　秋霧や鹿の鳴　栗更

ゝ〳〵と霧ゝ立る　枯木哉　葛里

秋雨や秋菜　あるる人の姿　後物

稲妻　稲妻や静ゝ　あ秋の姿　栗更

稲つまり思ひ入べき　山もなし　葛里

角觝　いなびまのゝ角ひの旬ひの秋　敬示

みゝ〳〵婆風精あるゝ秋　勝角力　暁参

まけまき角觝を森和ゝ　越村

秋風　秋ゝ吹秋ゝ　秋の姿　樗良

秋のこゝろ秋の風ふく秋ぎりの　侍先
秋風や雲をはなれぬ月もあり　草丸
秋ちかし秋を朝ぐもあらそれと　碧太

朝貞

秋ぎりの晴ぬ山ぶみ　文常
もゝくさと秋の咲　姫松
雲の木槿ゆへ秋もあらそれと　士朗

木槿

花木槿きつのあさ山ひわり　粟更
秋の為花やうふ咲く木槿哉　白雄
　　鶴老

女郎花

秋風をかゝさてふきそ女郎花　曉臺
佛ゆ歌日かゝてゝ　几董
さゝ〳〵と涼なみ草　士朗

草花

草ふ花秋ゆ咲て草ゆ花　曉臺
ちゝを集ても夕くれそ草ゆ花　寥松
すゝわ〳〵すゝもいろ〳〵州の花　鶯笠

萩

萩ふ手ゆ白月ふつけくりけ出る　閑更
月ゝ見ゆゝ雲ゆゝ萩の花　道彦

桔梗

萩

唐辛

萩とゝのへとかゝる月のかゝるかな　真砂

桔梗咲て いつれも萩のいとさうれ　曉臺

陰あるゝ夏の草紙靜こ　五朗

唐この葉よ色葉ふ面ちかゝる時　蕉雨

萩の葉ゝ垂を人あさ夕へうゝ　蘭更

靜さの萩ゝ垂ゝ　蕉の跡　紫笠

萩ゝ垂ゝ風や扇ふ吹神ゝ　徐涯

七夕も唐ゝ又若ふ唐かゝし　護白

虫

靖蛉

唐かゝし　玉屑

ゝの戸ゝ萩ゝ唐かゝし　塊翁

ゝの花もう秋を唐かゝし　二柳

鈴虫や面ゝ子猫の下むせひ　道彦

ゝゝきもちふふうものきりゝゝさ　冢更

月清て ちゝをめゝしの下ゝ　蕪村

月ゝ解寧屋の猫ふ猫地ゝ　千代尼

蓮の実ふゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　靜菅

赤ゝんやうゝゝゝゝ蛙の色

秋蚊　秋の蚊や　手のとゞかぬ　所なり　曉臺
秋蠅　あるかなきかの　ものゝつるゝ　秋の蠅　二柳
秋蟬　鳴ずに身を　鳴ぬるまん　秋の蟬　冥交
秋日　出しまや　秋の日八　隅田川　成美
秋空　明星の　新らしうなる　秋の空　車蓋
秋山　きゝ方や　多ゆる　雲の山　葛里
　　耳ずに　絶つく　秋の山　張る　寥松
二日月　雲の　秋の　二日月　葛里

二日月　二月　秋の　張ゆる　あり　羅城
　　あるとも　見ずに　絶　三日　撫良
　　美しき　秋を　張る　あり　三日の月　葛里
三日月　三日月も　見ずに　月の　角田川　道彦
待宵　武家さの　十夜　秋　月入　待宵　秋　仝
　　との　技ず　待宵の　月見　一つ　松　葛里
　　癖の　あれ　見て　出れ　十七日　老人
名月　名月や　新宮よ　ゝも　ものの　原　冥交

名月や月よりかなる隈もあり　琴太
名月や高きを高きあくるなの上　無村
なるかの月　さてもせまぬ出るかな　道彦
簑笠をかくしあかせるかの月　五芳
名月をかくしたるくももなし　真洞
めくるかるかの月のうつれるる　道彦
名月をいくしきの人人　嵐外
十六夜雲より出るかの新　樗良

仲秋十五月

十六夜や月よりかの月　几董
三日月のかくれぬ月　椿堂
姨捨や月かくれる名所　葛三
秋の月　完来
秋の月あかき一つの月　盛青
人のかくれかの月　星布
秋の月森と森の間より　夏雲
山をかくれかの月　無村

瑞雲のみたまうつし芒の一つ　家　蒼雨

川辺の芒ちるとあるる秋の郷　心兆

稚人の隠れつつあるし紫苑さく　乙二

籬の鶏の鶏頭　鶏頭　獲物

鶏頭や秋の長き日うらうら　冥史

鶏頭や秋の長き日うらうら　蕪村

鶏頭やけうらくしくも日のつまる　寒松

青星の鶏頭小歌の郷　蓼太

砧

雁

鳴

落月や高り来れば小歌きゆる　冥史

砧やかるる笠の月　蟹守

高月の中宵より　擽良

高月や砧ふまえて沐屑　冥史

初丁や砧ふまえて沐屑　冥和

鳴きて秋立ちぬ　無村

秋立ちぬ鳴きの夕べを　冥史

高く高く鳴きて物のかなしさ　葛里

炊暮　青羅
戸ぼそう人新きしぬ梅の蕚　冥文
ア渡せる志ら浪のうを秋のうれ
芒かと新く物多しし秋の蕚　士朗
栗山子
西りを浪の浪ちるまを栗山子蕚　蟹守
人芸仙の吉ホ人生仙のかるし蕚　椿胎
ゆうれの骨ち梅るかくし郡　葛里
鳴子
出られて人ち酥く鳴ちう郡　車雨
出けやちの鳴ち乃むち蕚　道意

暴風
蕚毎ち蕚ちちれば所ヲの秋　相栖
秋明れい末蕚の燈ち角田川　爰南
海山の市ち明ち乃鹿の那　栗更
鹿
蕚風ハ下ち弘蕚ち弘蕚弘　二柳
五位警ち位中ち弘ち弘蕚弘　乙二
已のちち出ちち鹿乃鳴ち蕚弘　樗良
鹿の鳴蕚引むち蕚のたち弘　暁臺
秋鹿や蕚の出ちちちち蕚　斗入

長夜　蕚村

ながき夜や目覚てもなほ夜半也　乗更

秋夜　成美

秋の夜を松為の杉もかなしかり　岳輪

蟋蟀の鳴かぬ夜の長かりき　摂良

菊　葛里

白菊やこころあやうく移さまし

ちりぬ菊一輪つゝみ合るる　心兆

散ぬ間毎日菊のこゝ張る那

后月　蓼太

稲うけて星移りゆく后の月

七夕　蛙文

七夕の夕の月の名残惜し

夕の月の宮ゆくえ也　后の月　葛里

紅葉　蓼太

掃き寄も焚えゝ淋し夕紅葉

反紅葉しゝ岩長宗る　紅葉　護物

紅葉や紅葉を流る雲の寄　道彦

行秋　冥々

行秋も一秋とあり山の奥

行秋の寄せ来もしくと秋の月　真洲

行秋を大和平積むみなと哉　椿堂

冬之部

時雨

初しぐれ目かれかれなる　栗更

たまりかねぬる橘の匂ひかな　樗良

さざなみと高かれ低かるしぐれ哉　阿蔵

小春

鳥の羽の編笠ぬぎし小春哉　咲蓋

野鳥のあらそひて　小はるかな　菖蒲

小春空掃らしかぶれる星流　星流

冬日

冬の日の流れ初めて久し　伏央

冬月

あくまでも静かに出でて冬の月　成美

たちまちかくれ出るもの冬の月　土朗

赤うしのたちもとゝ〻岩の月　素堂

風

風の中に立ちたる柳哉　栗更

赤うしのこゝろもとゝ猿森に　乙二

風やまを尾ぶくしく人きたる　葛里

枯尾花

中くに小根つゝくまり取枯尾花　咲蓋

海山の風ふかれて尾花うゑ　皐池
尾花うれて人のまつうさ　鞍風
枯芦の日ふくとそれて流れ　軍更
根つくくて形表へ　雄岌
山茶苔の芦　自楽
枇杷花の重日の雪を乱と義うる　警白
落葉　枯木の條を投越せ　枇杷の花　剛更
暁を引拔のふるふ　落葉ふる
松の火年落葉ふりもり　暁臺

冬篭
落葉しく日南ふまそる　桜弐　成美
啓く冊子久まやふ西こもり　涼佛
冬籠史記ふむ形を　軍更
されそそ井を友るれ　椿堂
榾
榾のそそ家しくとまり　涼佛
朝くこのうき芝と沈る　榾の新　暁臺
榾のそそ　森くるるの蓑も弐　伯先
火桶
枯られし人の滅年ふけ　桶　暁臺

こゝれ居る皮女の中 雪ゐ月花 藜夫
新くのふるて新 雪を火掻 素藻
歳の鳥や稲のありこゝろ入ぬり 文左
月初ふる雪や屋の炭 星潛

炭

巨燈

袁のえ〳〵歳雪年 神こゝ花 鶯笠
茶もあ体と竹ふ屋の巨燈 斗入
かう掃も家巨燈てゝあり一茶
ふたゝ〳〵て待押ぬく巨燈 巣兆

紙衣

月ふさく糊のえゝ雪子 風更
強ふく居る源氏紙子 蓼太
古年ふてあて雪子 復物

食

十夜

御命講

の新の世く新春の食の新 雪雄
待て花ふ〳〵十夜の講うら 蕉雨
殺うけの新年妙蛟ゝ梁十夜 菖三
講花の周源つゝれ御命講 有斐
袁町や袁の花も一ゝて 復物

水鳥　水なるや水なるの後なるは　ゆく　衆更
人良なるて帰鴨そいるし　成美
あるるをみんな親子うはるれ　護物
鴛鴦　鴛鴦なるはけもの　やさめるく岩なと　涼俤
鈴なくなるるるるなぬ風の鴛　春蟻
千鳥　なるるなる枯芦あんと咎めひぬ　蟹守
浦なるるるなるなる夜式　衆更
押つけるるるなるなる村なるる　蓼太

草九
乙二
葵亭
蓼太
衆更
嵐外
寒松
漫

鯨鈴　きなるる式
あけはの〳〵湖　みそさるる
一鈴も妻なるつれなるそさるる
鰒　ふるるの眼なる毒あるけるるなぬ
毒なる弗やるふむるる鰒ふ毒
一度なるとる年もなる海豚魚と鯨なり
冬山　なるの山蒲のるけふるるる松
蕎割るるるるや幾つなるの山

霜

寒

鉢敲

霜やこの小竹が原も白ふつる　樗良

寺〳〵の塔ぬけるる夜式　蓼太

昇る日ふなうなぬ鶴ほし嘉の軒　春蛾

雲霧や炭焼のみちもなし川　曉臺

家ありと雪も寒〳〵やの陰　乙二

時雨とりさん寒〳〵庵の軒　嵐外

鉢叩ふ月秋八月ふくる　蓼太

炊煙の夜ふかしかれる鉢敲き　曉臺

霰

雪

初雪

南無阿弥陀南無阿弥陀白〳〵と降る雪　士朗

山の月霰こぼせ〳〵かぼそ　乙二

ちら〳〵やあら〳〵ひもの雪ふる　蓼太

イハ狩ふる雪の歌ちら〳〵那　几董

よるさ狂を敲る雪ふる夕〳〵　樗良

初雪やとりの雫ふる音　椿堂

雪をつゝ減ぬやうに垣　葛里

初雪や梅の雫ぬ波のよ〳〵音小　升入

師走　古れても春ぞ近き師走の三日月　樗堂
　　枯木打る窮うり高き師走哉　鴫里
春近　玉ぶりく命長うれ春近ちかく　春鴻
歳暮　白雪ふつる思ひ年ふれぬ　樗良
　　とり出せる都の歳や大晦日　眾更
　　世の中の甲斐くしさく年の市　菖三
　　行年や象潟扶そ花のうえん　蟹守

江戸本石町十軒店萬笈堂英大助
同平吉蔵板俳書目録

○類題之部

俳諧發句五百題　春秋庵白雄房撰　小本二冊
同　新五百題　田喜庵獲物撰　中本二冊
同　新々五百題　仝撰　仝一冊
同　名所千題集　仝撰　仝三冊
同　今人東風流　洞海舎京谷撰　仝二冊
　　一具庵一具校

同　十方句集　全撰　全校　全四冊

同　續故人五百題　一具庵一具撰　小本二冊

同　類聚　八朶園寥松撰　中本二冊

俳諧新發句類聚　全撰　全二冊

俳諧發句類題　全撰　全二冊

同　古今撰　蕪菴蟹守撰　中本二冊

四季發句帳

白[illegible]七五三　岬丸大人輯　全一冊

俳諧發句新類題　六合庵万里輯　中本二冊

○句集之部

嵐雪句集　称子峯集　全二冊

其角句集　坎窩久瓢撰　小本二冊

蓼太句集　全六冊

夷登句集　全一冊

巣兆句集　全一冊
宮来叢句集　全二冊
梅翁宗因叢句集　中本二冊
太無叢句集
存義叢句集
獅子眠叢句集
柳居叢句集

糊紙　甲斐艸九集く
葛里句集　吉田の集く　全一冊
護物七部集　小本二冊

○季寄之部

意の栞　青雲庵北元著　小本一冊
俳諧手挑燈　一名俳諧初心手引草　中本二冊
同　掌中小本　全一冊

俳諧四季名寄　李寄天明の五子、貞名西と併称せん　寸玲一冊

俳諧袖鏡　一枚摺

季寄便覽　横本一冊

俳諧通言　小本一冊

（文之部）

新編俳諧文集　当時三名の人の文をあつむ　全三冊

袖宝規　表俳諧宝座変体之図

七部集その外多俳諧の変化なる産を之産所合巻

国土名所俳諧の自在と一国ヨリ人物をそなへし

俳諧雅　自初編今天保迄凡三十編

○掌中寸珍物　海数多あり自今俳諧集所多あり

掌中五百題初編　集所初編

同　二編　集所二編

同　三編　集艸三編
同　芭蕉發句集　集艸四編
同　其角發句集初編　集艸五編
同　二編　集艸六編
同　三編　集艸七編
同　嵐雪發句集初編　集艸八編
同　二編　集艸九編

同　乙由發句集　集艸十編
同　蓼太發句集初編　集艸十一編
同　二編　集艸十二編
同　新五百題初編　集艸十三編
同　二編　集艸十四編
同　三編　集艸十五編
同　古今撰　集艸十六編

猶追々出刻

○假名遣物目録

万葉用字格　春登上人撰　懐中　折本一冊

（万葉集とみて書き写すべき字の中にて正仮と分別の書物）

尚古假字格　山本明清大人撰　全　全一冊

（絶代万葉以下古籍のつかひ様）

今古假字格　島井八穂大人撰　全　全一冊

（古今集と今昔物語とを合せ一目に見る図）

對照假字格　長野美波留大人撰　全　全一冊

（えにしあり）

字家の故實　新校　小本一冊

音便假字格　春登上人撰　全　一冊